

授業科目	英語学概論Ⅱ					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	2	開講時期	後期
担当教員	西原 真弓						
授業概要	前期の英語学概論Ⅰで学習したことをベースに、英語学概論Ⅱでは、英語学研究の中でも「語用論」「社会言語学」「英語と文化」「認知言語学」に焦点をあて、英語学概論Ⅰとは違った角度から英語という言語に関する理解を深めていくことを目的とします。それぞれの分野内での基本的な理論についての講義を聞き、それを応用して自分なりに英語の表現を分析し言語の深さを実感できるようになります。						
授業形態	対面授業			授業方法	ディスカッション、プレゼンテーション		

## 学生が達成すべき行動目標

標準的レベル	語用論、社会言語学、英語と文化、認知言語学分野で扱う授業内で学習した事象について具体例を挙げながら、大まかな説明ができる。 学習した理論を応用し言語事象に関して基本的な考察ができる。
理想的レベル	語用論、社会言語学、言語と文化、認知言語学の分野で扱う事象について、授業内で学習した内容を深く理解した上で、自分で取り上げた別の事象に応用して具体例を挙げながら、わかりやすく説明できる。 学習した理論を主体的に様々な事象・現象に応用し、分析をすることができる。

## 評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	0	
小テスト	0	
レポート	60%	
発表（口頭、プレゼンテーション）	40%	2回の発表。
レポート外の提出物	0	
その他	0	

## カリキュラムマップ（該当DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	-	DP3	○	DP4	-	DP5	○	ナンバリング	EN21206J
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	--------	----------

## 学習課題（予習・復習）

1回の目安時間（時間）

毎回の授業で学習したことを復習し、応用課題に取り組む 1つテーマを決め、言語事象について発表するための準備をする	4
---	---

## 授業計画

第1回	語用論 やり取りが成り立つしくみを「協調の原理」と「会話の含意」を用いて考える。
第2回	語用論 「スピーチアクト理論」をつかって会話を分析する。
第3回	語用論 「ポライトネス理論」を理解し、会話を分析する。

第 4 回	語用論 「Face 理論」について理解を深め、人間のコミュニケーションが円滑にすすむ仕組みを考察する。
第 5 回	語用論 あいさつ表現を分析し、ことばの裏にある価値観を考察する。
第 6 回	語用論 自分が選んだテーマで発表をする。
第 7 回	社会言語学 国別の英語の特徴、国内の地域方言、階級/階層方言、アコモデーション理論、politically correctness について理解する。
第 8 回	社会言語学 バイリンガリズム、言語選択「コードスイッチング」について理解する。
第 9 回	社会言語学 英語の国際化について調べたことを発表する。
第 10 回	言語と文化 「言語相対論（サピア・ウォーフ仮説）」を通して文化と言語の関係を考える。
第 11 回	言語と文化 文化の文脈度による言語使用への影響について理解する。
第 12 回	言語と文化 「文化の次元」の指標を使って文化の特徴が言語や行動に及ぼす影響を理解する。
第 13 回	言語と文化 「文化の次元」の指標を使い、ビジネスシーンでどのようなことが起きうるか考察する。
第 14 回	言語と文化 自分が選んだテーマで発表をする。
第 15 回	認知言語学 「言語は人がどのように世界や物事を捉えているかを映し出す鏡である」というのがどういうことなのか理解する。
テキスト	長谷川瑞穂編著 (2014)『はじめての英語学 改訂版』(研究社) *教科書は前期に購入したものを引き続き使用する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ことばと文化： 岩波新書 (鈴木孝夫)</li> <li>○本当にわかる言語学： フシギなくらい見えてくる!</li> <li>○言語学入門： これから始める人のための入門書</li> <li>○明解言語学辞典</li> <li>○言語学が好きになる本</li> <li>○First steps in English linguistics 2 版</li> </ul>

課題に対するフィードバックの方法	発表についてはその場でコメントをする。 レポートにはコメントをつけて返却する。
学生へのメッセージ・コメント	我々が日常的に使っている「ことば」を意識的に分析する方法を学び、なぜ、人間のコミュニケーションが機能しているのかを解き明かしていくため、ことばに关心がある人には面白い分野だと思います。受け身的に講義を聞いて理論を知るだけでなく、その理論を実際に使って、いくつかの言語現象や会話のやり取りを切り取り、分析してみましょう。そうすることで、無意識に自分たちがことばを使って行っている様々なことを理解することができるようになります。自分の周りにある言語材料を使って主体的に分析をしてください。

